

例1：「日本人同級生との会話」

会話活動

基礎

中等プログラム 5年

基準	A	B	C	D	E
得たレベル	7	8	-	-	-

背景

- 基礎課程では話し言葉に力を入れており、生徒はできる限り、日本人と話すよう絶えず促されている。このクラスでは、同課程を学習中に学校で頻繁に出会うような日常会話を練習した。当校には日本人生徒が何人かおり、生徒はその子どもたちと話をしている。これは日本語教師と話すより、より本物に近い会話である。日本語を話す者がいない所では、日本語を学習している上級生が下級生を指導している。(会話活動には当然) 聴解能力も必要とされる。
- 準備する時間は与えられていない。生徒はどんな質問をされるか、また、どの日本人生徒と話すことになるかは知らされていない。日本人生徒/上級生は教師が準備したメモを持って会話に望んでいるが、これは、評価される生徒が聞き慣れた言葉を使って話が進むように会話をコントロールするためである。しかし、臨場感を出すために日本人生徒/上級生は自由に自分のコメントを述べたり、相づちを打ったりしている。彼らは評価される生徒たちより、年が下なのでこうしたガイドラインが必要と思われた。辞書やメモの持ち込みは不許可とした。
- この課題は基準A及び基準Bの中で評価してある。

基準A 内容と情報交換

最高レベル8

この作品がレベル7を得た理由は以下の通りである。

- ロールプレイの中で多種の事柄についての情報交換をよどみなく行っている。
- テーマに沿った内容で、必要な部分は詳しく述べている。
- 相手の質問/コメントのほとんどを理解し、自分の質問/コメントも大部分適切なものである。テーマに沿った考えを提示しており、それを詳しく述べている部分もあるが、そうでない部分も時に見受けられる。
- 繰り返しや言い直しがほとんどなく、会話に参加している。時折見られる会話の途切れも自然なものである。

以下の項目が習得できていれば 同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- 自分の考えを(一部ではなく)全体を通して詳しく述べる。
- 会話をもっと長く続かせる。

基準B 表現と言語使用

最高レベル8

この作品がレベル8を得た理由は以下の通りである。

- 発音、抑揚がはっきりしており、会話がスムーズである。
- 基礎的な語彙を十分に駆使して会話を行なっている。
- 基礎文法事項の使用が基礎レベルとしては全体的に正確と言える。